

令和6年5月13日開会

令和6年度第2回教育委員会定例会会議録

垂水市教育委員会

# 令和6年度 第2回教育委員会定例会

## 日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和6年5月13日(月)	教育長 坂元 裕人	教育総務課長 草野 浩一
午後1時57分	教育委員 田原 正人	学校教育課長 川崎 史明
↓		
午後4時47分	教育委員 葛迫 幸平	社会教育課長 大山 昭
第2研修室	教育委員 田之上 厚美	
	教育委員 福里 由加	

## 会議要旨

### 1 開会

定刻、定足数に達しており、令和6年度第2回教育委員会定例会を開会した。

報告第12号及び議案第7号から議案第10号については、非公開で審議する旨、教育長から発議があり、全会一致で議決された。

### 2 令和6年度第1回定例会会議録の承認について

令和6年度第1回教育委員会定例会の会議録について、承認する旨、教育長から発議があり、全会一致で議決された。

### 3 議事

- 報告第12号 令和6年度垂水市一般会計補正予算(第1号)案についての市長への意見申出について
- 報告第13号 垂水市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について
- 報告第14号 垂水市地域学校協働活動推進員の委嘱について
- 報告第15号 垂水市視聴覚ライブラリー運営委員の委嘱について
- 報告第16号 垂水市社会教育委員の委嘱について
- 報告第17号 垂水市青少年育成センター協議会委員の委嘱について
- 報告第18号 垂水市青少年育成指導委員の委嘱について
- 報告第19号 鹿児島島津家墓所(垂水島津家墓所)災害復旧検討委員会委員の委嘱について
- 議案第6号 垂水市立学校給食センター調理・配送業務委託プロポーザル審査委員会設置要綱の一部を改正する要綱 案
- 議案第7号 令和6年度垂水市奨学資金奨学生の決定について
- 議案第8号 令和6年度垂水市立学校運営協議会委員の委嘱について
- 議案第9号 垂水市教育支援委員会委員の委嘱について
- 議案第10号 垂水市特別支援連携協議会委員の委嘱について

#### 4 その他

- (1) 垂水市立学校給食センター調理・配送業務委託に係る公告及び仕様書並びに募集要項について

#### 5 委員並びに教育長及び課長報告

#### 6 閉 会

## 議 決 事 項

件 名	提案等理由	審議の状況	採決の次第
<p>報告第 12 号 令和 6 年度垂水市一般会計補正予算(第 1 号)案についての市長への意見申出について</p>	<p>地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 29 条の規定に基づき、市長から教育委員会の意見を求められたが、急施を要したため、教育長の臨時代理により意見の申出を行ったことを報告するもの。</p>	特記事項なし	承認
<p>報告第 13 号 垂水市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について</p>	<p>垂水市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により行ったことを報告するもの。</p>	特記事項なし	承認
<p>報告第 14 号 垂水市地域学校協働活動推進員の委嘱について</p>	<p>垂水市地域学校協働活動推進員の委嘱について、教育長の臨時代理により行ったことを報告するもの。</p>	特記事項なし	承認
<p>報告第 15 号 垂水市視聴覚ライブラリー運営委員の委嘱について</p>	<p>垂水市視聴覚ライブラリー運営委員の委嘱について、教育長の臨時代理により行ったことを報告するもの。</p>	特記事項なし	承認
<p>報告第 16 号 垂水市社会教育委員の委嘱について</p>	<p>垂水市社会教育委員の委嘱について、教育長の臨時代理により行ったことを報告するもの。</p>	特記事項なし	承認
<p>報告第 17 号 垂水市青少年育成センター協議会委員の委嘱について</p>	<p>垂水市青少年育成センター協議会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により行ったことを報告するもの。</p>	特記事項なし	承認

件名	提案等理由	審議の状況	採決の次第
<p>報告第18号 垂水市青少年育成指導委員の委嘱について</p>	<p>垂水市青少年育成指導委員の委嘱について、教育長の臨時代理により行ったことを報告するもの。</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>承認</p>
<p>報告第19号 鹿児島島津家墓所（垂水島津家墓所）災害復旧検討委員会委員の委嘱について</p>	<p>鹿児島島津家墓所（垂水島津家墓所）災害復旧検討委員会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により行ったことを報告するもの。</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>承認</p>
<p>議案第6号 垂水市立学校給食センター調理・配送業務委託プロポーザル審査委員会設置要綱の一部を改正する要綱案</p>	<p>令和6年8月1日から令和9年7月31日までの「垂水市立学校給食センター調理・配送業務委託」を公募型プロポーザル方式で委託業者を選定するに当たり、審査委員会の委員等について改正する必要があるため、垂水市教育委員会の行政組織等に関する規則第11条第3号の規定に基づき、議決を求めるもの。</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>原案可決</p>
<p>議案第7号 令和6年度垂水市奨学資金奨学生の決定について</p>	<p>令和6年度垂水市奨学資金奨学生の決定について、垂水市奨学資金条例第6条の規定により、会議に付するもの。</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>原案可決</p>
<p>議案第8号 令和6年度垂水市立学校運営協議会委員の委嘱について</p>	<p>令和6年度垂水市立学校運営協議会委員の委嘱について、垂水市立学校運営協議会設置規則第7条及び第8条の規定により、会議に付するもの。</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>原案可決</p>
<p>議案第9号 垂水市教育支援委員会委員の委嘱について</p>	<p>垂水市教育支援委員会委員の委嘱について、垂水市教育委員会の行政組織等に関する規則第11条第12号の規定に基づき、</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>原案可決</p>

件名	提案等理由	審議の状況	採決の次第
議案第10号 垂水市特別支援連携協議会委員の委嘱について	議決を求めるもの。  垂水市特別支援連携協議会委員の委嘱について、垂水市特別支援連携協議会設置要綱第3条及び第4条の規定により、会議に付するもの。	特記事項なし	原案可決

## 議 事 内 容 等

<b>3 議 事</b>	
	<b>報告第 13 号</b>
学校教育課長	<b>垂水市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について</b> (資料に沿って説明)
田原委員	この会議は毎年開かれるのか。
学校教育課長	毎年開かれます。それから先ほど似たような会ということで、調査委員会についてもご説明しましたが、調査委員会の委員には弁護士が入っており、いじめ関係で「ちょっと深刻化しそうだ」、「保護者とトラブルそうだ」というときに、学校へ直接行って職員研修等に参加していただいたこともございました。
教育長	調査委員会は、本市の現状を踏まえて情報交換をする定例的な会と重大事案が発生したときの会議 2 回分を予算化しています。 垂水でもいつ起きても不思議ではないという状況の中で、私どもは定例的なものと、いつでも柔軟に対応できるものと会議を分けながら、運営を行っていくということを去年、一昨年ぐらいからすでに軌道に載せております。先ほどあったように、弁護士には具体的に学校の中に入ってもらって、学校を守るために、「法律的にいうと、こういうところになります」みたいなことをお話していただいております。
田原委員	ありがたい。仕組みを今作りつつあるところですね。すごく心強い。  (承認)
	<b>報告第 14 号</b>
社会教育課長	<b>垂水市地域学校協働活動推進員の委嘱について</b> (資料に沿って説明)
教育長	この方々の主な役割は。
社会教育課長	学校と地域を結ぶ窓口、声を届ける窓口です。
教育長	今、田之上委員から見られて学校協働活動は、うまく機能して児童生徒たちにうまく還元されているかどうか、どのように感じておられますか。
田之上委員	はい、小規模校ではこの推進員の方々の力が、学校や様々な行事を行うには必要不可欠ではないでしょうか。 垂水小学校、垂水中央中学校がどうなのかということになりますけど、垂水小学校でも昔遊びであったり、掃除を一緒にする、というような形で学校に入ってきてくださっているの、その学校が必要とするような活動に対して支援をするという形で、機能しているのかなと感じております。

<p>教育長</p>	<p>垂水中央中学校も推進員の方が、学校側と相談をしながらバスの添乗であったり、あいさつ運動であったり、草花の手入れであったり、子どもたちだけでは、時間的に無理があるようなことを手伝いする形で入ってくださっているので、うまくいっているのではないかなと思います。</p> <p>学校側と相談をしてお互いが嫌な思いをしないよう望むものに対して、できる支援をという形がいいのではないかなと思っています。</p> <p>P T A活動がある意味補完するようなところもあります。すごくありがたい制度だと思っているところがございます。</p> <p>きっと子どもたちと接したり、話したりとかいう場面もあるので、そういうことを非常に大切にすること大事な時代に入ってきたということです。</p> <p>ぜひ、これをさらに前へ進めていけるように教育委員会側と工夫していければかなと思います。ありがとうございます。</p>
<p>社会教育課長</p>	<p>(承認)</p> <p><b>報告第 15 号</b>  <b>垂水市視聴覚ライブラリー運営委員の委嘱について</b>  (資料に沿って説明)</p>
<p>社会教育課長</p>	<p>(承認)</p> <p><b>報告第 16 号</b>  <b>垂水市社会教育委員の委嘱について</b>  (資料に沿って説明)</p>
<p>社会教育課長</p>	<p><b>報告第 17 号</b>  <b>垂水市青少年育成センター協議会委員の委嘱について</b></p> <p><b>報告第 18 号</b>  <b>垂水市青少年育成指導委員の委嘱について</b>  (資料に沿って一括説明)</p>
<p>田原委員</p>	<p>昔、公民館主事をしていた頃、警察や教育委員会から不審者が出たとかいう通知を受けて、この育成指導委員の方々に連絡を取って、見回りをお願いするのですが、ほとんどの方が働いているので、「帰りに見回ってくださいますか」とお願いするのですが、この連絡が家の電話は分かるけど、携帯の電話がなかなか分からなくて、なかなか連絡が取れないとかいうのがあって困ったことがありました。</p> <p>こういう緊急な連絡があるので、できれば指導委員の携帯電話を覚えておくことも必要かもしれないです。教えている方もいるでしょうが、バラバラだと統一性がないので、そこをお願いする形で検討していただければと思います。</p>

<p>教育長</p>	<p>社会教育課長は、そこは、ぜひ確認をしてみてください。</p> <p>(承認)</p> <p>報告第 19 号 鹿兒島島津家墓所（垂水島津家墓所）災害復旧検討委員会委員の委嘱について</p>
<p>社会教育課長</p>	<p>(資料に沿って説明)</p>
<p>田原委員</p>	<p>委員については特に意見はないですが、令和 2 年に起きた土砂崩れの島津墓所の崖は綺麗になっていますが、災害復旧工事の進捗状況についてと、あと、上の方の墓が埋まったと思いますが、その辺はどうなっていますか。</p>
<p>社会教育課長</p>	<p>はじめに、令和 2 年度に土砂崩れをしたところですが、島津墓所は国指定となっておりますので、国と協議しながら災害復旧を進めており、年数がかかっているというのが現状でございます。</p> <p>具体的には、その土砂が崩れたところの復旧作業については、まず、土砂をのける作業を行い、土砂流入で倒れた石碑を集める作業を令和 3 年度、4 年度に行いました。</p> <p>また、倒れた石碑が壊れてバラバラになっていましたので、葵文化という熊本城の修復をされている熊本の会社がきて、現在、修復作業を行っております。</p> <p>令和 5 年度は市文化会館裏にテントを立て、そのバラバラになった部分を文化会館裏で乾燥させ、その後、元の形に修復する作業を行っております。</p> <p>最終的には、その石碑があった周りにブロック・擁壁をした後、石碑を元のところに戻して、石碑の土台と合わす作業をして完成となります。</p> <p>現在の状況でいいますと、現在、文化会館の裏のテントで修復作業しておりますが、私も初めてのことで細かいところまではわからなかったことから、いろいろ聞いたところ、修復といっても単にボンドをつけるということではなくて、先ほどご説明した委員の方々に「この材料を使って、どういう角度で、どう修復する」というような詳細な説明と承認がいらいます。</p> <p>その承認をもらった後、文化庁のヒアリングを受けて、作業開始となりますので、その工程だけでも優に 2・3 か月ぐらいかかるため、作業はまだ始まっていないところです。</p> <p>ちょうど今、バラバラになった石碑を組み立てており、バラバラの石碑に細かいピンを止める角度や太さ、止めるピンが見えないようにピンを石碑の裏から入れて、石に見立てた材料、いわゆる偽石をつけるという形で、元の素材を崩さないようにし、元の形に戻すための修復する作業をしているところです。</p> <p>通常、このような作業は見ることはできないところですが、何とか子どもたちに見せる機会を考えており、教育委員の方々の日程を調整いたしますので、ぜひ見ていただきたいと考えております。</p> <p>また、先ほどの石碑を持ってきたまでの話は文化財専門員がいなくてできないという決まりがあります。</p>

そのため、県の文化財専門員に立ち会いに来てもらい、まずは、現場を掘って、どの地層からを判断して、どこまで掘るとかいう調査を本年度行い、来年度工事するという工程を繰り返し行うので、まだ何年もかかる見込みです。

ただ、この工程は令和5年度までは県の専門員の立ち合いでできたところですが、令和6年度からは、市に文化財専門員がいなければ認められないという決まりがあることから、教育長にご足労いただき、今年度市の文化財専門員を採用したところです。

新規採用職員となるため、県から指導員をつけてもらい、いろいろと指導されているのですが、やはり現場は慣れているようです。

現場調査が入る前に、「まずは本年度こんな調査をしてよろしいでしょうか」、「調査はこういう材料を使って、こうします」と9月の審議会で承認されましたら調査に入ることになりますが、実際に調査を始めるのは、年が明けて1月、2月とか、今年の11月、12月、1月の3か月ぐらいかかる予定です。

昨年度は、熊本から来られて、泊まり込みで3か月続けてされるような事業になるものですから、例えば、令和3年度、4年度、5年度、6年度というように、5・6年はかかると考えております。

おそらく、今、私が話した内容は熊本城復旧のイメージを持っていただければ分かりやすいと思います。熊本城の復旧が数十年かかるというのはそういうことです。

国指定の復旧作業は難しく、ただ動かすにも許可がいりますことから、時間がかかるということです。今回、現場で専門員が石碑を繋ぐところを覗かれると思います。このような機会はなかなかありませんので、夏頃、ご連絡差し上げますのでぜひ見ていただければと思っております。

(承認)

### 議案第6号

#### 垂水市立学校給食センター調理・配送業務委託プロポーザル審査委員会設置要綱の一部を改正する要綱 案

教育総務課長

(資料に沿って説明)

田原委員

保護者代表は委員に入らないのか。

教育総務課長

ご説明した学校関係者は、小・中学校の校長会代表とPTA・保護者代表を考えております。

田原委員

選定するときに、今の業者の良かった点、悪かった点とかを出されて次の業者を決めるのか。もちろん、今の業者も選定の中に入って、比較して決められると思うが、その辺はどうなっているのか。

教育総務課長

後ほどの「その他」のところでも詳しくご説明いたしますが、募集要項の中で審査基準を記載しており、記載している審査項目の視点に沿って審査を行います。

	<p>当然、審査委員の方も初めての審査ですので、審査基準を明確に示して行いたいと考えております。</p>
教育長	<p>現在の業者の3年間の総括みたいなのは出てくるのか。</p>
教育総務課長	<p>出していただくようお願いしてあります。 今の契約には、そのような項目を明記していないため、次回の契約のときはそこを明記しようと考えております。</p>
	<p><b>(原案可決)</b></p>
	<p><b>報告第12号</b> <b>令和6年度垂水市一般会計補正予算(第1号)案についての市長への意見申出について</b> (資料に沿って説明)</p>
教育総務課長	
教育総務課長 学校教育課長 社会教育課長	<p>(補正予算案の内容については非公開)</p>
	<p><b>議案第7号</b> <b>令和6年度垂水市奨学資金奨学生の決定について</b> (非公開)</p>
学校教育課長	
	<p><b>議案第8号</b> <b>令和6年度垂水市立学校運営協議会委員の委嘱について</b> (非公開)</p>
学校教育課長	
	<p><b>議案第9号</b> <b>垂水市教育支援委員会委員の委嘱について</b> (非公開)</p>
学校教育課長	
	<p><b>議案第10号</b> <b>垂水市特別支援連携協議会委員の委嘱について</b> (非公開)</p>
学校教育課長	
<b>4 その他</b>	
教育総務課長	<p>垂水市立学校給食センター調理・配送業務委託に係る公告及び仕様書並びに募集要項について (資料に沿って説明)</p>

田之上委員	職員採用については、現在、働いている方が希望されれば新しい業者が入ったとしても、継続して働くことができるのか。
教育総務課長	仕様書の中で、現在雇用される人で希望されれば優先して採用していただく形にしております。
教育長	プロポーザルの参加要件として、新たに2時間以内に来れることを条件に加えたというのは、例えば、給食の異物混入事案の発生など業者側が即時対応すべき事案が発生したときを想定してのことか。
教育総務課長	そのとおりです。
<b>5 委員並びに教育長及び課長報告</b>	委員並びに教育長及び課長報告に入る。
田原委員	<p>5月2日夜7時から9時まで、水之上小学校PTA主催の転入教職員歓迎会が、水之上地区公民館で行われました。</p> <p>今年は非常に転入者が多く大幅に入れ替わり、教頭を含めて6名でした。主催したのは、旧5年生のPTA役員の方々でした。</p> <p>先生方、公民館役員を中心に地域住民の30名ぐらいの会になりました。</p> <p>この3年間、開催がなかったため、この間の先生方はどんな先生がおられて、いつ転出されていかれたのかというのわからない状況でしたけれども、今年是这样してしっかり開催されましたので、お一人おひとりの先生方を知るいい機会だったと思います。</p> <p>通勤される方が多いということでしたが、ある先生は鹿児島から来られるということで、自宅から港まで車で来て鹿児島に車置いて、フェリー乗って垂水港から車で水之上小学校にくるということで、車を2台置いているという先生もおられました。また、鹿屋や桜島から来られる先生もおられて、それぞれ通勤が大変だなと思いましたが、元気そうな若い先生方が多かったです。早く、水之上小学校に慣れて本領を発揮していただければ思うところでした。大変和やかな会でした。</p>
教育長	<p>きっと迎えてもらった転入された先生方は元気をもらったのではないのでしょうか。子どもたちと頑張ろうという気持ちになったのではないのでしょうか。歓迎されていると感じられただけでも違うと思います。</p> <p>しかも、職員が教頭とあと2、3人の転入でした。この3人がまたすごく元気な方です。他の先生と一緒にご指導いただければと思います。</p>
葛迫委員	<p>5月9日木曜日、午後から柘原小学校でスケッチ大会の前絵画指導ということで、教職員8名に対して職員研修会を行いました。</p> <p>第2土曜日がスケッチ大会ということで、少し早いのかなと思ったのですが、スケッチ大会の絵画指導をどうすればいいのかということでしたが、絵画指導という大きなくりの中での指導案でしたので、少しポイント絞って構図の取り方、彩色の方法にさせていただきました。</p>

私よりも現場の先生の方が指導は分かっているのではないかと思っただころですが、多様性を求められているのかなと、少し困惑しながら指導になっているのかなと感じたところです。

学校の先生たちも、正解のない、正解がないって言ったら語弊がありますが、そういう何でもありというような図画の指導方法はちょっと難しいのかなという感じがしました。

現在、スケッチ大会は子どもたち一人ひとりがタブレットを持って、自分の描きたいところを撮り込み、気に入った場所を描くという指導になっているのですが、タブレットに撮り込んだ様々な風景を自分の好きなように切り込みながら下絵を描き彩色していく、これはこれでいいと思うのですが、そのタブレットを使った今の児童絵画展やジュニアの美術展を観ていくと、子どもたちの絵画は非常にうまくなってきている、そしてテクニックも高度になっていることに気が付きます。ただ、芸術は見たものをそのままを描き制作するのではなく、物の持っている内側にあるものを表現するということを忘れてはならないと思います。このことは子どもたちにとっては非常に難しいことだと思いますけれども、先生たちの指導の中で、外側を描くだけでなく内側にある心の奥底を見つけ出す指導も忘れてはならないですよ、ということをし話しました。

少し話が横道にそれましたが、最初に言われた彩色や構図の撮り方の指導の中で、赤と緑であったり、青と黄であったり、青とだいたい、黄と紫であったりとこの補色を使って先生たちに色を混色してくださいとの提案に、先生方は初めてだったのですかね。黄土色ができた、茶色ができた、灰色ができた、肌色ができた。非常に喜んでいる様子でした。そして、低学年、中学年、高学年による個別の指導方法の質疑応答にも、様々な意見が出て力が入っている感じがしました。

また、垂水史談会復活30年記念事業として、北迫正治原画展が5月31日まで、垂水市立図書館で今開催されています。昨日でしたけれども、5月12日日曜日、北迫正治原画展のワークショップが開催されました。大雨が降っている中でしたけれども、元教員の方や現在、教員をされている先生方、美術が好きな主婦の方、垂水市の地域起こし協力隊の方も来られて、初めてお会いしましたけれども、若い方でした。そして史談会や職員の方など16名の方々に参加していただきました。

非常に雨が降っていましたので、10人ぐらい来ればいいとかなあと思っていたのですが、新聞記者の方もこっちの方に向かっていらっしやっただのですけれども、大雨が降ってきたということで、引き返したというような連絡もありました。何とかこのワークショップが開催され私は非常にうれしく思ったところです。

さて、今回のワークショップ型ギャラリートークでは、講師とギャラリーの垣根を取り払おうと、旧態依然のギャラリートークではなく、ギャラリー参加型で始めたところです。今のギャラリートークは講師または作家が自分の作品の説明や製作の段階などを一方的な方向、一方通行で進めていくのですが、私はこの展覧会の企画者にギャラリートークではなく、ワークショップにして全員参加型ギャラリートークでいきたいと思いますと朝話し合ったところでした。

当日は雨の影響で参加者も少なかったことで、一人ひとりが1つの作品に対して、1分間作品を眺めてくださいと言いました。

	<p>そして、その眺めた作品を見て課題を見つけてみましょうと、そうしたことで作品について、その作品の「わからないところ」、「わかったところ」、作品の「変なところ」、「面白いところ」、「嫌なところ」など、いろんな意見を持ち合わせながらのワークショップになったところです。</p> <p>外はまだ雨が降り続いていましたが、「今日のワークショップは楽しかった」とか、「絵の見方が変わったとか」、「北迫正治さんの作品を後世に残したい」といった意見に私は安堵したところでした。</p>
教育長	<p>確かに、ワークショップ型ギャラリートークってというのは面白そうですね。</p>
葛迫委員	<p>こういう言葉はないのですが、従来のギャラリートークは、一方通行のギャラリートークになりやすいので、作家はもう亡なられているのですが、当日は作家のご家族のお二人がお見えになられていましたので、ギャラリーの皆様と作品を通して、作家のご家族とトークをしながら、作品や作家の人柄など、手探りで探り出そうというような感じのギャラリートーク、ワークショップを行ったところです。15、6人來られていたのですが、みんなに私は話を振ってすると皆さんいろんな意見や感想を述べていただいて「絵の見方がこうだ」とか、「ちょっとわかったじゃないが、こういう見方もあるのか」と作品の評価じゃないですが、意見や感想を述べておりました。</p> <p>それと作家は亡くなっておられるのですが、天の上から「おれの絵は、こうじゃないよ」というような思いをみんなにぶち上げてしたりして、結構面白いギャラリートークになったところです。</p>
教育長	<p>今まででいうと作品に対して、観る側がコメントをするなんてあり得ないじゃないですか。</p> <p>いわゆる好き嫌いを含めて、そういう風に評価するなんていう仕方をする、それは面白いですよ。もう観た五感で、「感じたことを意見や感想を述べてください」って、そこを参加された方から引き出すっていうのは非常に面白い取り組みです。</p>
田之上委員	<p>本市に転入して来られた先生方の宣誓式では、今年もやる気にあふれた先生方お迎えできたことを頼もしく思いました。</p> <p>また、管理職の先生方との懇親会は久しぶりだったこともあり、ゆっくりと親しく話をするのができてとてもよかったです。</p> <p>新年度が始まって1か月あまり経ちました。多くの子どもたちが生活に慣れて楽しく過ごしていると思っています。</p> <p>それで私の知る垂水児童クラブの様子ですが、児童クラブの子たちはもちろんすごく元気ですが、日によって入口で立ちどまって、入れないで泣き出してしまいう子もいたりします。</p> <p>また、中庭で遊んだり、何となく時間を潰していると、上級生が付き添って連れてきてくれることもあったりして、やさしい一面にうれしく思ったりすることもあります。</p> <p>子どもたちも日によって、いろいろな思いを抱えて来所することがあり</p>

<p>教育長</p>	<p>ます。暗い顔でやって来る子もいますし、言えなかったことを咳を切ったように支援員に話し出す子どももいます。そんな子どもたちの思いを受け止めることで、笑顔が戻り、元気に帰って行ってくれたらと思いながら、周りにいる大人は本当に気をつけて、見守っていかなければならないなど改めて思う日々です。</p> <p>多くの子どもたちは、先ほどいった困り感だったり、いろんな気持ちで帰っていくのでしょうか。すっきりと部屋を出て帰ってくると本当にほっとして「ありがたかった」という思いをもらうのだろうなと思います。そういう意味では、やっぱり学童、この児童クラブというのは、大事な役割を担っているのだと改めて感じます。辛いときも最後は笑顔になって帰ると改めて非常に大事な役割をしていただいていると感謝申し上げます。</p>
<p>福里委員</p>	<p>4月21日に行われた子どものSOSの講演会に参加させていただきました。今回は「令和時代を生きる子どもの可能性」という演題で、「これからの教育はどうなっていくのか」とか、「親はどう支えればいいのか」という視点から話がありました。</p> <p>多様性を尊重しつつ、子ども達が失敗してもいい、くじけそうになってもいいということを伝え、心が折れた後、どうやって立ち直るかが大切とありました。</p> <p>親としても基本的自尊感情を育むために、一緒に喜んだり、悔しがったりして共有体験が必要ですよという話がありました。</p> <p>また、ありのままを受けとめるとあったのですが、どうしても私自身が子どもに言い過ぎてしまうところがあるので、気をつけないといけないなと思いました。</p> <p>新学期がスタートして、垂水小学校のキャッチフレーズは「せいっっぱいは、かっこいい」でした。</p> <p>娘から「精一杯はかっこいいっていうんだよ」というのを聞いて、「誰が考えたの」と聞いたら「校長先生」と、それをちゃんと担任の先生が「校長先生が考えたから、こうやって頑張ろうね」ということを伝えてくれているのがすごくうれしく、娘も校長先生が大好きなので、「校長先生が考えたから頑張る」と言っていました。</p> <p>学校だよりの中でも自分のできることを精一杯頑張る姿が垂水小学校のあちらこちらであふれることを願い、設定しましたと書いてありました。</p> <p>今の時代は「頑張らなくてもいい」という風潮ですが、やっぱり頑張るから、精一杯頑張るから、子どもたちが達成することがたくさんあると思うので、娘にも頑張っって欲しいなと思います。</p> <p>息子も進学、進路希望を決める学年になりました。学校から「どこの高校を第一志望にしますか」とかあったのですが、全然決まっていなくて、また、なりたい職業とかも書かないといけなかったので、「なりたい職業は何」と聞くと「デザイナー」、で「何のデザイナー」と聞いたら「なんにしようかな、看板デザイナーにしようかな」とか、あとは格闘技が好きなので、「格闘技をプロデュースする人になりたい」とか言い出して、本当に夢のようなことを考えています。</p> <p>担任の先生も三者面談で言っていたのですが、まだみんなちょっとゆ</p>

<p>教育長</p>	<p>っくりしていて余裕がありすぎるところがあるので、明日の実力テストで「ちょっとこれではいけない」というふうに思わせるためか、「今回は厳しいです」というふうに言われて、息子は大丈夫かなと心配をしていた。</p> <p>また、夏前に次の三者面談があるので、その時にはもう志望校とかをできれば決めて欲しいということでしたが、私としては夏休みが明けてからかなというふうには考えているのですが、毎日元気よく、学校に行ってくれたらいいなというふうに思っています。</p> <p>昨日テレビを観ていたら、もう完全に終身雇用制というのは崩れてしまって今は転職を考えつつ、まずは3年間勤め上げると、というのは、次に転職するときに、あなたは前の会社に何年いたのですかと面接のときに聞かれると、3年というのが1つの基準みたいです。3年間勤めた、またその次はまた伸ばせるのではないかとということです。</p> <p>今の若者もいろんなこと考えています。例えば30で結婚して、40になったらこんな仕事してというような、叶う、叶わないは別として、自分の人生設計をきちっとしているのだなと思いながら、選択いわゆるそのチャンスというのはいっぱいあるのでしょうか。それを「つかめられるか」、「つかめないか」というのはやっぱりその子どもの力もあるでしょうけれども、一方でやっぱり心の強さもある。</p> <p>そこは、何をやっても、さっき頑張るという言葉が出ましたけれども、本当だと思います。どれだけ「頑張れる」あるいは「踏ん張れる」かというところもあるのかなと思いながら話をお伺いするところでした。</p> <p>「精一杯はかっこいい」という、校長さんらしいと言えば校長さんらしい、彼はさりげなくそういう言葉をいって、またそういう子どもをその気にさせるというのはすごく得意ですからね。</p>
<p>福里委員</p>	<p>去年の中学校は、すごく和やかな雰囲気先生方を紹介され、やっぱり中学校はいいなと思いましたが、逆に小学校は大丈夫かなという感じがしたのですが、今年はなんか反対でした。</p> <p>やっぱり、校長先生が変わったからですかね、なんか自己紹介をされる時も、先生方は一言ずつあいさつをされていましたが、中学校はただ頭を下げるだけでした。</p> <p>うちの娘の担任は新任3年目の先生でしたが、他の先生方は「よろしくお願ひします」だけでしたが、担任の先生は、「精一杯頑張ります、よろしくお願ひします」と言われて、それがすごく響いて、多分6年生は初めてだと思うのですが、何か先生も頑張るといのがすごく伝わりました。また、その隣先生が、担任の先生より頑張りますと言われて笑いが起きたのですが、その感じすごく良くて、今年は小学校の方がいい雰囲気なのかと感じたところです。</p>
<p>教育長</p>	<p>校長の思いとか、人だとか、力量も含めて、浸透していくには時間がかかります。だから、垂水小学校の校長の人柄、あるいは学校経営がわかってきて、いかに安定感というのがあるのかなと思います。</p> <p>だから、職員もそういう意味では自分が出せると、一方、中学校は変わったばかりですから、まだ、校長が様子見というところもあるでしょうし、職員もだいぶ変わりましたから、そういう意味ではまだこれからです。</p>

教育長

校長らしさが出てきたら、また学校が違ってくるのではないかなと思います。

では、私からゴールデンウィークも過ぎてしまえば、あっという間です。子どもたちは、楽しみにしていただろうし楽しくすぐ過ごせたでしょうかね。今、学級のまとまりも含めて、学校は落ち着いて力をつける時期に来ているのかなと思います。

一方、市の職員も社会教育課に配属された新規採用職員3名も含めて、上司、同僚、非常に順調に業務をこなしているのかなという気がします。

今後、教育委員会、各課、様々な事業あるいは重たい懸案もありますけれども協力し合いながら前へ進めていきたいなと思っております。

私の方から大きく2点です。

まず、1点目はGIGAスクール構想がいよいよ始まりましたが、思うことについて2つ例を申し上げます。

まずは、先週、タブレット端末による遠隔合同研修会なるものの、第1回目の職員研修会を開催しました。

すべての学校の職員を対象としながらも、特に、今年度転入した先生方には参加してもらい、講師も現場から垂水小学校の通村教諭、協和小学校の竹下教諭、いずれも実践家でもあるのですが、本人の活用実践をもとに話をしてくれました。

内容は、具体的にわかりやすく先生方からも好評であったと聞いております。今年度は3回を予定としており、あと2回、またこのタブレットを使っての合同研修会を予定し、プラスアルファ、夏休みは全体が一堂に会し、市民館を全部使って研修会をやりますので、大分浸透していくのかなと思っています。

今後もこのような実践的な研修を重ねながら、「交流と発信」というところをテーマに今年度もGIGAスクール構想をもっともっと前に進めたいなと思っております。

それと今日、実は、新城小学校と垂水小学校の遠隔合同授業、第1回目を行ったところです。

私と学校教育課長は、タブレットで視聴をしましたけれども、両方の校長から、少し感想を聞きいたところ、まず新城小学校校長は「同じときに、同じ学習内容を学ぶ、考えてみれば、当たり前のことなのだけれども、そのことはとってもうれしかった」と、要するに大人数でということも含んでの話だと思うのですが、学校間で「質問をする」あるいは「答える」という場面があったみたいですが、このことも、当たり前のことですが、「うれしかった」と。

そういう場面を見ると、「やっぱり、このGIGAスクールっていいなというふう感じた」ということでした。

私は最後に思ったのは、授業の最後、お互いに名残惜しそうに手を振る、「バイバイ、またねー」みたいな感じですね。

そういう場面を見ると、やっぱりこれ、間接体験とはいえ、タブレットで顔見知りになる、あるいは知り合うという、そういうところによさを感じました。

今回、そのホスト校は垂水小学校でした。

そこに小さな学校が参加してくるという形で、大きな集団を作りながらやるというところで、今回、新城小学校がまずトップバッターでやってく

れましたので、次は、また小さな学校と垂水小学校を結んでというところで、垂水小学校は同じ学年学級だと大変ですので、そこは変えながらできればなと思っています。

これは課題として「なるほどな」と思ったのが、接続のスピードです。

というのは、やっぱりタイムラグある。委員の皆様は、文部科学省の研修を経験されたではないですか。やっぱり、どうしてもタイムラグがあったようです。タイムラグが改善できるか、どうやったら改善できるのかをぜひ専門の方の指導も仰ぎたいなということが1点ありました。

また、これはマイクの精度がいいがゆえのことなのですけれども、実は複式の学級ですので、5年生6年生同時に授業をやっています。そうすると今日の遠隔合同授業は5年生でしたが、6年生の声を拾ってしまい、垂水小学校側で、「え！今なっていった？」みたいな、ある意味授業の中で、一部混乱が起きたということもありましたので、そういうところも次への課題なのかなと思っています。

いろいろと成果と課題がこうして出てきて、実践を重ねるごとに良くなっていくのでしょうか。そういうことを感じました。

今後、日常的に取り組めるのは垂水ぐらいしかないのかなと思います。あんまり、県の教育長会でもこういうことを話題にする人はいませんで、前に進めてきてよかったなと思っているところでございます。

2点目は、九州地区全国都市教育長研修会に参加してみて、どこも、やはり少子化が進んで児童生徒の教育状況、よりよくする視点での学校のあり方を求められる時代、あるいは問われる時代と言ってもいいかもしれません。本市だけではなく、全国的な課題でもあると改めて思うことでした。

あと、文部科学省の事業説明の中で、様々出てまいりましたけれども、今、申しあげました人口減少、少子化、このことは非常に大きい課題であるというふうな受け止め方でした。

つまり、学校規模、いわゆる適正規模を12から18学級キープできているのは、全国では小学校の4割、中学校は5割、ということは、半分以上はそれ以下の学級ということです。

ですので、本市でもこのことがいよいよ検討すべき時期に来ているのだなと、時間もかかることでもありますので、慎重かつ丁寧に行ってまいりたいなというふうに思ったところでございます。

全国800名ぐらいの教育長さんが、それぞれの、また一方で教育課題も抱えて、そして教育を前に進めようとされているのだなあとということを感じました。

また、全国でもやっぱり不登校は増えています。

どこでも、どの会場でも話題になったのは、あるいは懇親会で話題になったのは不登校の問題、それとやはり保護者対応の難しさ、これが出てきます。

あと、いわゆる少子化が進む中でも、学校のあり方です。

このあたりは、重たい課題であるなというところで、まさにその教育課題満載の時代、山積の時代にいよいよ入ってきたということです。

まさに九州もそうだったのですけども、全国でも、よりネットワークを張りながら、お互い情報を共有しながら、前へ進めていきたいと思います。というところで閉じた会議でございました。

本市も全国同様、様々な課題を抱えておりますので、三課長とまた連携・

<p>教育総務課長 学校教育課長 社会教育課長</p> <p><b>6 閉 会</b></p>	<p>協力しながら垂水の子どもたちのために、頑張っていけたらなと思うところでございます。</p> <p>4月12日から5月13日までの主な行事等について各課長が報告。 併せて、5月14日から6月10日までの行事予定についてお知らせした。</p>
---	--